

分析化学

科目責任者 梅澤規子
学年・学期 1学年・3学期

I. 前文

定性的なものから定量的なものまで、研究には様々な分析法が使用されている。それら分析法の原理を知るとともに、幅広い研究分野に触れ、関心を持つことを目的とする。この講義は2学期に開講される化学実験の経験を踏まえた上で進めていく。毎回簡単な定性実験を予定しているので、そのつもりで履修すること。

II. 担当教員

梅澤規子（基盤教育部門）

III. 一般学習目標

1. 様々な分析法があることを知る。
2. 分析法を通して、幅広い研究分野に関心が持てる。

IV. 学修の到達目標

1. 主体的に最新の研究について調べることができる。
2. 適切に実験を行える。
3. 適切に情報をまとめることができる。また、解読することができる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	11	16	水	4	オリエンテーション	梅澤規子	
2		30	水	3	様々な研究を知る		3
3	12	7	水	4			3
4		14	水	4			3
5	1	4	水	4			3
6		11	水	4			3
7		18	水	4			3

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

実験・受講態度 (60%), レポート (40%) で評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特に指定しない。適宜資料を配布する。

VIII. 質問への対応

随時対応するが、原則平日の9～17時とする。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義中もしくはLMSを通して行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安10分）

XII. コアカリ記号・番号

A-2-2), A-8-1)